

“広島県の児童・生徒等の美術作品を公募し、優れた作品を展示することにより、創作活動を奨励するとともに、鑑賞の機会を提供し、次世代の美術力（感じる力、考える力、みる・かく・つくる力）の向上を図ることを目的とした公募展です。”とは第1回広島県ジュニア美術展募集要項のリードです。

ここに示されている理念は正面から受け止めていただきたく願っております。

単に見栄えのする作品づくりではなく取り組む過程で感じる力、考える力、そして、みる・かく・つくる力をこそ身につけてほしいとの願いを含んでいます。

いわば「絵を育てる（作品づくりの文脈）」ではなく、「絵で育てる（人づくりの文脈）」、すなわち、Education through Art の具現を願うものです。

### ＝ 各系大賞作品及び作者コメント ＝



古迫 奈々葉《8月6日》／【作者コメント】原爆は今から67年前に落とされました。／こうして平和にくらしていると悲さんな出来事が現実にこの広島であったということがうそようです。／私は戦争を知らないのおばあちゃんに聞いてこの絵を描きました。／大変だった所は、下にたくさんの被爆者の方々を描いた事です。この絵を通して平和にくらしていることへのありがたさを感じてもらえたらうれしいです。

(絵画系／小学校第6学年)



林 佳那《私の日常》／【作者コメント】この作品に描かれている「手」は私の手です。また、この手には友人の髪をもっている場面を描きました。／いつも仲良くしている友人の顔や、心優しい姿を思い浮かべながら一生懸命に描きました。そんな私の思いが伝わればうれしく思います。／表現材料は鉛筆です。時間はかかりましたが、細かい部分も丁寧に描いていきました。私としては満足のいく作品に完成できたと思います。／第一回という記念すべき年に大賞を頂き、喜びで胸が一杯です。

(絵画系／中学校第2学年)

小野寺 祐希《南瓜》／【作者コメント】この作品は、私が粘土ではじめてちゃんと作った作品です。／遊びでたまに粘土をさわることはありましたが、モチーフを見ながら、色まで塗ることはありませんでした。モチーフのものと形を似せるには、削ったりつけたりの繰り返しでほんとうに苦労しました。少しでもリアルに見えたなら幸いです。

(彫刻系／中学校第2学年)



三坂 笑花《trick or treat》／【作者コメント】この絵は「ハロウィーン」をテーマに描いたものです。いつもは皆に怖がられるお化けたちが、子ども達の人気者になれる特別な日がハロウィーンです。すごく夢があると思い、このテーマにしました。／空に流星のように広がるろうそくの火は、子ども達の夢を表現しています。明るい色も使って、お化けの怖いイメージと、楽しい感じの入り交じったハロウィーンならではの世界観も表現しました。深く考えず自分の素直なイメージを描けたと思います。

(デザイン系／中学校第3学年)

西内 海斗《ガラクタ宇宙船》／【作者コメント】捨ててしまう物や、使わなくなった物を使って、かっこいい宇宙船を作りました。ほくが、この作品を作ろうと思ったのは、ガラクタからでも、ふしぎな物が作れると思ったからです。／工夫したのは、色の調整です。下の貯金箱は、最初に黒をぬって、上の宇宙船には、グレーをぬり、最後に、シルバーのスプレーを、薄く何回も何回も、塗りました。この作品が完成して、がんばれば、何でも出来るとわかりました。次の作品もがんばります。

(工作系／小学校第3学年)



永久 ゆう《マイグレートマザー》／【作者コメント】日曜日の朝、えんがわでママが大好きなコーヒーを飲んでいるところです。／撮影した時の気持ちは、大好きなママを大好きなカメラで写せたので、すごくうれしかったです。

(写真系／小学校第5学年)

## 詠んでよね、みてみた感想 五七五

広島県ジュニア美術展の目的は、表現及び鑑賞の活動を通して次世代の美術力（感じる力、考える力、みる・かく・つくる力）の向上に資することでした。

展覧会場では“詠んでよね、みてみた感想五七五”という題目のもと、ご来場された皆様にジュニア美術展の感想を五・七・五で書いていただきましたが、これは、主体的に「みる」ことは優れて創造的営みであるとの前提のもと、今後のジュニア美術展において、いわば「鑑賞系」という分野として「みる」行為を位置づけていくための試行でした。これに responding くださった4歳から79歳まで172名の方々から心からの感謝と敬意を表しておきたいと存じます。ありがとうございました。

さて、「鑑賞系」という位置づけであれば授賞句の選定が求められます。実はこれが大変でした。「たかが五・七・五の17音」のはずだったのですが、なんと「されど17音」だったのです。奥が深く幅の広い秀句ばかりで、まさに選句過程において私たちは「みる」ことの意味や魅力を再発見することになり、一句一句におおきく頷きながらの拝読となりました。よって選定させていただいた幾つかのみではなく、ご投句いただいたすべてを掲載させていただくことに致しました。

こうした成果から、私は、今回のような催しであれば、おおむね無理なく次年度以降も継続できること、そしてこのことを通して、感じる力、考える力、みる・かく・つくる力を形成できるであろうことを確信するに至りました。

末筆になりましたが、ジュニア美術展実施前後の一連の流れの中で、美術館友の会の皆様や県内の大学生のボランティア活動等が大きな支えになったことを改めて感謝しつつ筆を置きたいと存じます。ありがとうございました。（比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科教授 若元澄男）

### 受賞作品一覧

#### 大賞

さくひんが みんなちがって そこがいい（9歳）

ジュニア美術展を通して私たちがお伝えしたかったことがキッチリ詠み込まれています。絵画、彫刻、デザイン、工芸（工作）、写真の5系を「さくひん」の4文字にとりこみ美術の内容を過不足なく示し、オリジナリティーの大切さは「そこがいい」の5文字で指摘する秀句と受け止めました。（選者評）

#### 優秀賞

うれしいな わたしの絵がね あるんだよ（10歳）

美術展 来られる方の 笑顔展（21歳）

小雪降る 孫の作品 再度見に（70歳）

#### 奨励賞

来年は ぼくの作品 出したいな（10歳）

みんなの絵 一つ一つが すてきだな！（10歳）

すごかった みんなの作品 生きている（12歳）

作品は 人の気持ちか やどってる（14歳）

幸せが 会場中に あふれてる（20歳）

すてきだね 自分なりの 作品だ（25歳）

じぶんのこ すごいすごい さいこうだ (42歳)  
わが子がね 立派に見える 美術展 (49歳)  
つくること 楽しんでるね 子どもたち (54歳)  
まごの絵は 入選だけど 一番だ (70歳)  
よく見たね よく感じたね この作品 (76歳)  
孫の絵に 相好くすず じじとはば (78歳)

以上、広島県立美術館のHPから「詠んでよね みてみた感想 五七五」を全面引用させていただきました。この企画、実はジュニア展における「鑑賞系」の「種目」を設定することにより子どもたちの「みる力」の形成を図ろうとの意図でした。しかし結果的には老若男女多数の方々のご投句くださりうれしい限りでした。

子どもたちの「鑑賞五七五」へのチャレンジはまぎれもなく言語活動であり、児童・生徒の「感じる力」「考える力」「みる・かく・つくる力」の形成に作用することが期待されます。

ところで「鑑賞五七五」は、今回のような美術展のみでなく、いつでもどこでも誰でもが具体化できます。すなわち日常の教室での具体化を望みたいのです。

教室の後ろに投句箱が設置されれば中間の作品に対する自分の感想を随時発信できる環境保障になります。先生に書かされてかく五七五ではなく、休み時間や放課後、自らの意思で中間の作品の前に立ち、鉛筆を手に、感じ・考えたことを主体的に言語表現（活動）するのです。

